

令和5年度 自己評価表 (中間評価)

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>これからの社会に向け、たくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びの推進</li> <li>規範意識と多様性の受容力の向上</li> <li>地域貢献力の育成</li> </ul>
---------------------------	---	-----------------	--

年度当初				評価結果(9)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	学びに向かう意欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートで学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が92.5%。一方で、学習内容の満足度について肯定的な回答をした生徒は67.1%にとどまっており、学習への意欲はあるものの、学習内容の理解については課題が多い。(1年次生はChromebookで評価アンケートを実施。)</li> <li>○進路指導に対する満足度68.3%。生徒への進路指導を早期に行うため、2年次から面接週間で担任教員に加えてキャリア形成部の教員も面談を実施している。</li> <li>○「人との出会いをとおして成長を感じている」とした生徒は前年度同率。(R3:78.7% → R4:78.6%)</li> </ul>	<p>【学校評価アンケート】(12月実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学びに向かう意欲</li> <li>・学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が95%以上</li> <li>・学習の満足度70%以上</li> <li>・授業等の指導カードを受ける生徒の減少</li> <li>○学びに向かう意義</li> <li>・進路指導に対する満足度75%以上</li> <li>○意欲・意義の醸成</li> <li>・人との出会いを通して成長を感じている80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのルール」について定期的に確認して自学の意欲を喚起する。</li> <li>○1学期末に生徒による授業評価を実施・分析し、生徒の学びの質向上に向けた授業改善を行う。</li> <li>○進路ガイダンスや担任面談等にキャリアカウンセリングを実施して、進路意識を高める場面を増やす。</li> <li>○各系列の授業、「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間(日野探究I・II)」において外部人材を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育企画部アンケート(7月実施)「学ぶ内容に満足している」と回答した生徒は89.1%「授業の進め方に満足している」と回答した生徒は87.1%。一方、授業に対する要望は全学年を通じて「授業の内容が理解できない」という回答が多く見られた。</li> <li>○1学期末の授業評価の結果を受けて、気になる生徒について情報共有し、面接指導した。</li> <li>○HR及びキャリア教育LHR等を通じて、生徒の進路意識を啓発するほか、全職員の協力のもと、きめ細やかな履歴書指導、面接指導、出願指導、小論文指導を行っている。</li> <li>○「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間(日野探究I・II)」で、社会人講師や地域サポーターなどを招聘し、様々な出会いを通じた成長の場を作った。</li> <li>○9月末現在、授業関係で特に問題になるような指導改善カードを受けた生徒は0人。(昨年度は8名)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体として授業に対して前向きな生徒が多いが、理解度という点で課題が見られる。実施したアンケートの内容を職員全体で共有し、必要な授業改善につなげる。</li> <li>○面接週間において、進学を希望する1年生に対し、担任に加えてキャリア形成部も面接を実施する。</li> <li>○生徒の進路意識の向上を目指し、キャリア教育に関する事業の実施時期(EX:卒業生講話)などを再検討する。</li> <li>○各授業の様子などについて情報共有を継続する。</li> <li>○引き続き指導改善カードの運用と並行しながら、特にその場での指導を徹底する。</li> </ul>
	授業のICT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○7月の協同学習授業研修会に併わせ、授業公開週間を実施。授業へのICT活用法について教員間で相互研修を行った。さらに、11月にも授業公開週間を実施した。</li> <li>○8月にICT活用の先進校から教員を招聘し、Chromebookの活用について教員校内研修を実施した。ICTを活用している教員は80%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協同学習</li> <li>・教員間での授業参観と事後の授業検討会を年2回以上実施。</li> <li>・ICTを活用した協同的な学びの実践</li> <li>【ICT活用・指導力調査】</li> <li>○ICT活用</li> <li>・日常的にICTを活用した授業を行っている教員が90%以上。</li> <li>・探究学習におけるICTの活用を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協同学習の実践を前提として、授業におけるICT活用に関する職員研修を継続的に行う。</li> <li>○日常的なICT機器活用のため、必要な機器を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回授業公開週間7月実施。</li> <li>○各教科で協同学習(ICT)重点授業の実施</li> <li>○「産業社会と人間」では、毎回の振り返りをChromebookで取り組んでいる。</li> <li>○1、2年次生は、キャリアパスポートをChromebookを用いて、記入している。</li> <li>○7月に県外推進校から、ICT活用に関して先進的な取り組みを行っている講師を招喚し研修を実施。</li> <li>○持ち運び用パソコンを1台購入。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの場面でICT活用を意図的に増やしていく。</li> <li>○研修を通して得られたICT活用に関する知識を生かして授業改善を行い、生徒の個別最適な学び、協働的な学びの実現をめざす。</li> </ul>
2 規範意識と多様性の受容力の向上	人と関わる力の増大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「人の役に立っていると思う」とした生徒は微減。(R3:46.1% → R4:45.2%)</li> <li>○自己理解・他者理解講演会(1年・7月)、性教育講演会(2年・12月)、性に関する指導LHR(全校・12月)、ストレスマネジメント授業(全校)を実施し、「相手の気持ちを大切にすることができている」とした生徒が増加。(R3:77.5% → R4:79.8%)</li> <li>○朝食を全く摂らない生徒が7.7%。食育講演会(1年・9月)、食育映画鑑賞学習会(3年・12月)、希望者対象の簡単朝食講習会(家庭クラブ)を実施し、食への興味・関心を高める取組をした。</li> <li>○生徒指導事案はやや増加。</li> </ul>	<p>【学校評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人と関わる力</li> <li>・自尊感情や自己有用感50%以上</li> <li>・他者理解において成長85%以上</li> <li>・人との出会いを通して成長80%以上</li> <li>【食事についてのアンケート】</li> <li>○規範意識(生活習慣)</li> <li>・朝食を全くとらない生徒が5%未満</li> <li>○規範意識(多様性の受容力)</li> <li>・暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会や様々な地域交流活動等を実施するとともに、個別の支援に努める。</li> <li>○地域貢献活動を通して、成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める。</li> <li>○保健便り、講演会、講習会、保健室での個別指導などとおして、食に関する啓発活動を継続する。</li> <li>○見逃さない生徒指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各系列での地域交流により「人と関わる力」に変化が見られ生徒の成長がみえる。</li> <li>○通級指導のサポートが効果的である。</li> <li>○自己理解・他者理解講演会(1年・7月)、ストレスマネジメント授業(1、2年・6月)を実施。</li> <li>○食育映画鑑賞学習会(全校・7月)、食育講演会(1年・9月)を実施。</li> <li>・朝食を全く摂らない生徒が14.1%(昨年度比約2倍)。</li> <li>○授業や学校行事において、生徒間の活動を重視し、コミュニケーション能力を育成した。</li> <li>○各行事や学期ごとの振り返りをシートに書き出すことで、自らの状況を見つめ直す時間を設けている。</li> <li>○暴力・暴言・器物破損等の指導件数は0件。(昨年度5件)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、生徒が達成感を持って学習できる授業改善を実施していく。</li> <li>○不規則発言や行動に対する指導のタイミングを逃さない。また、振り返りや面談とおして、自らの言葉で状況や思いを整理させる時間を設けるようにする。</li> </ul>
3 地域貢献力の育成	地域に貢献する意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域と連携した学びが充実している」とした生徒は微減。(R3:77.5% → R4:76.2%)</li> <li>○「学びの成果発表会」では、地域を学びのフィールドとした取り組みが学年進行することに充実していると高評価を得た。</li> <li>○生徒会執行部を中心に、「はるかのみまわりの活動」や学校祭の企画運営、学校改善に積極的に取り組んでいる。</li> <li>○環境教育LHR(全校・4月)、ゴミ減量チャレンジ(各学期末)、ゴミ出さないDAY(6月)、ペットボトルキャップリサイクル活動(8月)などを通して環境意識を高める取組を行った。</li> </ul>	<p>【学校評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域と連携した学びが充実80%以上</li> <li>○生徒が主体的かつ積極的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献活動等に取り組めるようになる。</li> <li>○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。</li> <li>○環境意識を高揚し、前年の電気使用量、可燃ゴミの総量を超えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間(日野探究I・II)」によって、問題解決能力を育成する。</li> <li>○生徒会執行部を中心に生徒自身が主体的かつ積極的に地域貢献活動を行う。</li> <li>○環境教育LHR、ゴミ出さないDay等のゴミ減量チャレンジ、地域の清掃活動など環境意識を高める活動を継続するとともに、TEAS通信や環境委員からの呼びかけで節電の啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間(日野探究I・II)」において、様々な活動に取り組む中で、問題解決能力を育成している。</li> <li>○環境教育LHR(全校・4月)、ゴミ減量チャレンジ(1学期末)、ゴミ出さないDAY(6月)などを通して環境意識を高める取り組みを行った。</li> <li>○地域の清掃活動(全校・5月)では積極的に活動を行い、地域の人のつながりを持つことができた。</li> <li>○環境委員がゴミの収集や分別、節電の呼びかけなどを行い、クラスの生徒への環境啓発を行った。</li> <li>○生徒の活動を注意深く見守り、教員間で連携をとりながら日々の声かけを欠かさないでいる。</li> <li>○生徒会執行部を中心に中庭池の掃除などの奉仕活動や学校祭の企画運営に積極的に取り組み成長がみえる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も積極的に外部に出向いて地域との連携を強化し、地域貢献力を育成する。</li> </ul>
4 働き方改革の推進	勤務時間管理及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外勤務の削減は前年度比△0.8%</li> <li>○時間外勤務の一人あたり月平均6.6時間(前年度7.1時間)</li> <li>○部活動指導は、概ね計画どおりに実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外勤務を前年度比△10%。</li> <li>○時間外勤務の一人あたり月平均時間△2時間。</li> <li>○適切な部活動指導の継続。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任業務や分掌業務などの平準化やICT活用による効率化を図り、個々の業務負担を軽減し、時間外業務を削減する。(ex 生徒面談で記録担当教員を設ける。)</li> <li>○部活動計画を月毎に立案し、計画に即した部活動指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○9月末現在、時間外勤務は前年度比△8.1%。</li> <li>○9月末現在、時間外勤務の一人あたり月平均前年度△0.4時間</li> <li>○教職員のクラウドサービス利用に関する校内ルールを策定した。</li> <li>○部活動計画及び実施は適正に実施している。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任業務や分掌業務の平準化を引き続き実施する。</li> <li>○職員の情報共有のためのクラウド上の掲示板を完成し利用する。</li> </ul>

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直  
 (100%) (80%程度) (60%程度) (40%程度) (30%以下)